

『就労支援者が目指す支援』

福岡 翼（管理者／サービス管理責任者）

11月に入り、平成29年もあとわずかになりました。みなさんは、1月に立てた目標は達成できたでしょうか。私は、立てた目標を忘れてしまい、思い出しながら平成29年残りわずかを過ごしています。



さて、就労支援者は障害者に対して何を指して支援をしているのでしょうか？

例えば、就労支援機関を利用して一般企業へ就職した場合、多くの支援者は、「定着」を目的に支援をします。「定着」を目的に支援することは、本人が長く働くことを目指すことであり、支援者として大切なことです。しかし、「定着」を意識した支援だけでは足りない部分があります。

例えば、知的障害A判定（重度）の方が、支援を受けながら一般企業（フルタイム）で働いています。入社3か月までは、急に泣き出すことや、体調を崩してしまう事がありました。それ以降は、会社側の支えにより、体調を崩して休むことは少なくなり、仕事も真面目に取り組むことができるようになりました。入社1年半経過した時に本人から「一人暮らしがしたい。自立した生活がしたい。」という話を聞き、就労支援者はどのように支援するのでしょうか？

働き続ける中で生活も自立したいという本人の変化は、障害の有無に関係なく当たり前のことです。本人が求めるニーズが実現できるように、支援者は支援をします。本人の「一人暮らしがしたい」という考えを尊重し、実現に向けて支援をします。また、職場に影響がすることも想定される為、職場の担当者にも理解した上で、仕事への影響に対する支援について職場と検討します。

働き続ける中で、必ず本人の働く考え方は変化します。仕事にやりがいを感じ、入社時と違う仕事にも挑戦します。長い時間で働きたい、給料がもっと欲しい、生活も自立したいと考えます。それは「人」として当たり前の変化であり、その人の成長と考えます。その人の変化や成長に対し、継続して関わり続けることが大事になります。また、関わり過ぎてしまうことにより、支援者への依存に十分気を付けなければなりません。

私は、「依存させずに関わり続ける」、「本人が望む自立の目途が立つまで、自立するまで関わり続ける」ことが福祉専門職（社会福祉士や精神保健福祉士）の就労を含む生活支援であると考えています。

私は支援者として未熟な部分も多いです。利用者と関わる中で、自分自身も成長していき、地域に必要とされる就労支援者として今後も努めていきます。



『就労移行支援事業』

福岡 翼（管理者／サービス管理責任者）

前回の創刊号では、就労継続支援B型事業を紹介しました。今回は、就労移行支援事業を紹介します。

三根会共同作業所の就労移行支援事業は、プログラムを設けていません。内容としては、正直就労継続支援B型事業と変わりないです。就労継続支援B型事業との違う点は、本人が「早く一般企業に就職したい」という利用者の想いに、迅速かつ適切に一般就労へ支援するかという視点です。プログラムを設けていない理由として、働き方は多様であり、本人の特性も多様。一人ひとりに必要なプログラム（支援）をしていきます。



一般就労に移行した方の職種と雇用形態

	平成28年度	平成29年度 上半期実績 (4月～9月)
製造業		1名（パート）
サービス業	1名（パート）	1名（パート）
福祉・医療		1名（パート）
特例子会社		1名（正社員）

～就労移行支援事業のこだわり～

- ①利用開始1年以内で就職を目指す
- ②「できること、できていること」に視点
- ③本人のやってみてほしい仕事を尊重
- ④就労後も期間の定めを設けず支援
- ⑤就労後の離職や転職も支援対象

『木工作业はじめました！！』

齋藤 洋子（支援員）

かねてから将来的に作業所に通えなくなっても趣味として繋がっていくものとして、作業種目が増やせないか？と、いうことを考えていました。

そんな中、“自分のほしいものを自分のアイデアで自分の手で市販にはないものを作る楽しさを伝えたい”という考えをお持ちの高須氏を講師にお招きをして、一色町の建築業者である有限会社都築建築様から廃材を寄付していただけるようになり、9月から火・金の午後に木工作业が実現しました。現在は3名の方で作業をしています。



木を切る、色を塗る等の基礎から始めています。始めて2か月過ぎようとしています。作品として販売ができるまでになりました。

作る楽しさから売れていく楽しさも実感してもらうために積極的にバザー等に参加をして行こうと思っています。木工作业に興味のある仲間を募集中です。作品の販売もしています。ぜひ見に来てください。



【真夏のレクリエーション】

下村 明代（支援員）

8月14日、15日、16日の3日間は、取引先業者が夏季休暇であることや、利用者同士の交流を深める為にレクリエーションを企画しました。



お化け屋敷、ボウリング、カラオケ、佐久島散策、
室内レク（卓球、カードゲーム等）を行いました。



いつも、作業されている時の真剣な眼差しとはまるで違う、
素敵な笑顔を沢山見る事が出来ました。



【秋のレクリエーション～伊勢神宮・おかげ横丁の旅～】

加藤 弘二（支援員）

10月9日、三重県伊勢市にある伊勢神宮と隣接するおかげ横丁に行ってきました。18名参加し、車3台で出発。途中サービスエリアで休憩を取りつつ、伊勢市へ。



おかげ横丁では3つのグループに分かれて、てこね寿司や伊勢うどんなどその土地の名物を堪能しました。小雨が降る中、鳥居前で全員集合し記念撮影。



伊勢神宮に参拝に来たことがある方もいましたが、みんな見よう見まねでお手水をしていました。



参拝を終えた後、おかげ横丁に戻りお土産を買ったり、
買い食いしたりして、楽しむことができました。



【家族交流会】 小栗 一将（支援員）

9月22日に家族交流会を行い、4家族5名の家族様が参加してくださいました。

最初に作業所の見学をしてもらった後、意見交換会をしました。家族からは、「家に引きこもらず通所できる場所があることはありがたい」、「一人では孤立してしまうので、複数人で就労できる場所がいいのではないかな」、「受け入れる企業が病気を理解できるようにしてほしい」等の意見をいただきました。

家族からの率直な意見を聞くことができる機会として、家族交流会を大切にしています。

家族交流会は今後も継続して続けていき、皆様のご意見をもとに事業所の質の向上を図っていきたくと考えています。



【第3回ハートネットフェスタのお知らせ】

西尾市から障害者の理解啓発事業の委託を受け、西尾市内の障害福祉に関わる事業所等が集まり、第3回ハートネットフェスタを企画しています。

今回のテーマは、「あなたらしく、自分らしく～みんな一緒に盛り上がりましょう！！～」

ゲストはお笑いコンビ「松本ハウス」です。松本ハウスは、ハウス加賀谷さんが統合失調症に罹患しており、お笑いをする傍ら統合失調症に対する理解を呼びかけるための講演活動などを行っています。今回は、ハウス加賀谷さんが出演したNHKの番組「バリバラ」で制作されたドラマ「悪夢」の上映、松本ハウスによるトークショー、当事者を交えたパネルディスカッションを行います。

皆様お誘い合わせの上、是非ご来場ください。

- ★日 時 平成30年1月13日（土）11：00～16：00
- ★会 場 西尾市文化会館 小ホール ★参加費 無料
- ★ゲスト お笑いコンビ 松本ハウス



ハートネットフェスタに関する問い合わせ先 ⇒ 三根会共同作業所 福岡・小栗まで

～お知らせ～

特定非営利活動法人みつね会では、会員を募集しています。

当事者及びその家族専用の会員もあります。

- ★ 正会員 年会費 2,000円
- ★ 賛助会員 年会費 1,000円
- ★ 当事者・家族会員 年会費 500円

～問い合わせ～

〒445-0872 西尾市矢曾根町赤地 62-1
 TEL/FAX 0563-54-5237
 Mail mitunekai22@yahoo.co.jp

担当：福岡

最新の取り組みは、
 Facebookにて公開中

